短 報

多形黄色星膠腫の1例

大阪警察病院病理科

奥田 敏美 辻本 正彦 黒川 和男 滝 一郎

I. はじめに

多形黄色星膠腫という腫瘍概念は、Kepes らにより1979年に初めて報告されたが、比較的若年者に発生し、組織像の多形性にも関わらず、比較的良性の経過をたどるまれな腫瘍とされている¹⁾。またその細胞所見の報告は少ない。今回われわれは典型的と思われる多形黄色星膠腫の1例を経験したのでその細胞像を報告する。

II. 症 例

病 例：22歳、女性。平成3年4月頃より全身性痙攣が生じるようになり、近医にて抗てんかん薬にて治療を受けていたが、平成6年1月MRIにて右側頭葉の脳表面直下に約2cm大の腫瘍性病変を指摘され、当院脳外科を紹介受診。精査ののち腫瘍摘出術が施行される。術後2年半の現在再発は認められない。

III. 細胞診所見

術中腫瘍捺印細胞像：比較的背景はきれいで、硝子様物質をみるが、壊死物質を認めない。腫瘍細胞は主として紡錘形で、細胞境界は不明瞭である。核は大小

不同が著しく類円形から不整形で、多形性に富んでいる。多核細胞も混在する(写真1a)。クロマチンは粗顆粒状で、増量し、明瞭な核小体を1個から数個認める。核内細胞質封入体を一部に認める。細胞質はライトグリーンに淡染し、線維状ないし泡沫状である。核分裂像は認められない。また硝子滴変性を伴う細胞や多数の石鹼泡状の空胞を有する腫瘍細胞や細胞質内物質を伴う多核細胞を認める(写真1b, c, d)。

IV. 腫瘍病理所見

腫瘍は比較的境界明瞭で、髄膜との癒着はないが、くも膜下腔に進展しており、断面は充実性で一部粘液腫状で嚢胞様であった。組織像は核の大小不同を示す紡錘形細胞が錯綜増殖し、核内細胞質封入体を有する細胞、多稜形の大型細胞や多核細胞が混在している。脂肪滴を有すると思われる空胞細胞やGranular bodyを認める。核分裂像、腫瘍壊死像および出血像などは認められない(写真2a)。鍍銀染色では腫瘍細胞間に細網線維が豊富に認められた。また腫瘍細胞の一部はGFAP陽性で(写真2b)、臨床病理学的特徴から多形黄色星膠腫と診断された。

V. 考 察

多形黄色星膠腫という腫瘍は、比較的若年者に発生し、組織像の多形性にも関わらず、比較的良性の経過をたどるまれな腫瘍とされている。組織像が多形性であるため、多形膠芽腫との鑑別をしなければならない臨床的に注意すべき腫瘍である^{1,2)}。

現在まで報告されている多形黄色星膠腫の細胞所見の特徴は今回われわれが報告したものとほぼ同様であり、腫瘍細胞の多形性にも関わらず、壊死や核分裂像

A case of pleomorphic xanthoastrocytoma
Toshimi OKUDA, C.T., I.A.C., Masahiko TSUJIMOTO, M.D., M.I.A.C., Kazuo KUROKAWA, C.T., I.A.C., Ichiro TAKI, M.D., F.I.A.C.

Department of Pathology, Osaka Police Hospital
論文別刷請求先 ☎ 543 大阪市天王寺区北山町10の31 大阪警察病院病理科 奥田敏美
平成8年11月11日受付
平成9年2月14日受理

写真1 圧挫標本細胞像。a：核の大小不同，核異型を有する腫瘍細胞が散在性に出現する（Pap.染色，対物10倍），b：細胞質の硝子滴変性，c：多数の石鹼泡状の空胞を有する腫瘍細胞，d：細胞質内物質を伴う多核細胞（Pap.染色，対物100倍）

写真2 腫瘍組織像。a：核の大小不同があり，紡錘形細胞，多稜形的大型細胞，多核細胞が混在している。Granular bodyを認める。核分裂像や壊死像は認められない（H-E染色，対物10倍），b：GFAP陽性細胞が認められる（GFAP免疫染色，対物40倍）

がないこと，腫瘍細胞のさまざまな変性所見が認められることにある^{3,4)}。今回のわれわれの症例では腫瘍細胞の変性所見と考えられる細胞質の石鹼泡状変化も認められた。年齢，発生部位および上記の細胞学的特

徴を認めれば，多形膠芽腫との細胞学的鑑別は可能と思われ，術中迅速診断の一助として有用であると思われる。

本論文の要旨は，第32回日本臨床細胞学会秋期大会（1993年11月）において発表した。

文 献

- 1) Kepes, J.J., Rubinstein, L.J., Eng, L.F. Pleomorphic xanthoastrocytoma: A distinctive meningocerebral glioma of young subjects with relatively favorable prognosis. *Cancer* 1979; 44: 1839~1852.
- 2) 川野信之. Pleomorphic xanthoastrocytoma 病理組織診断の要点と最近の知見. *病理と臨床* 1991; 9: 604~609.
- 3) 小林省二, 平川栄一郎, 船本庚申, 岸田不二夫, 河野幸治. 多形黄色星膠腫の1例. *日臨細胞誌* 1996; 35 (補冊1号): 206.
- 4) 河又國士, 渡辺達男, 山崎三枝子, 中手尚子, 副島興二郎, 前田昭太郎・ほか. 多形黄色星膠腫 (Kepes) の1例. *日臨細胞像* 1984; 23: 285.